塩山北小学校

# 「生き生きと学びあい，心豊かに生きる子どもの育成」
## ～進んで話し合いができる学級集団づくりを通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究の具体的内容と方法

（1）Ｑ－Ｕの実施・分析と学級づくり

（2）学級集団づくりを生かした話し合い，意見交流の授業実践

（3）読書活動の推進

2　研究実践

（1）授業研究

低学年部会，高学年部会の２つの部会に分かれての授業づくり

ア　低学年部会研究授業（１１月）

１学年　国語　「じどう車くらべ」　内田厚子教諭

指導助言　甲州市教育委員会指導主事　久保田英樹先生

イ　高学年部会研究授業（１０月）

５学年　国語　「大造じいさんとガン」　雨宮　正教諭

指導助言　甲州市教育委員会指導主事　久保田英樹先生

ウ　一人一実践の取り組み

各部会の研究内容を生かし，一人一実践に取り組む。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ２学年 | 国語 | 「しかけカードの作り方」 | 檜垣貴子教諭 |
| ３学年 | 社会 | 「甲州市の昔のくらし」 | 吉本賢司教諭 |
| ４年１組 | 国語 | 「ことわざブックを作ろう」 | 鈴木百合子教諭 |
| ４年２組 | 国語 | 「ウナギのなぞを追って」 | 中村亜矢子教諭 |
| ６年 | 社会 | 「日本と世界のつながり」 | 岡村澄人教諭 |
| 特別支援 | 生単・自立 | 「電車に乗ってでかけよう」 | 大島めぐみ教諭<br>野尻あや子教諭 |

（2）Ｑ－Ｕの実施・分析と学級づくり

集団づくりをするためには，その集団がどのような実態であるかを把握する必要がある。そのための具体的な指標として，今年度もＱ－Ｕを実施した。５月と１１月の２回検査を行い，その結果をもとにＫ１３法という方法で分析した。各学級の実態把握とその後の課題解決の具体的対策，そして支援が必要である児童への対応を検討し，全職員で共有した。

（3）読書活動の推進

ア　朝読書の時間の設定。

イ　参観日を利用しての親子での図書室解放。

ウ　長期休業を活用しての家読の取り組み

エ　異学年による読み聞かせ「仲良し読書」の取り組み

## Ⅱ　成果と課題

（成果）

・授業づくりは学級づくりから，という言葉がある。よりよい学級集団づくりにより質の高い学びあいができると考える。研究主題については適切であり，児童の実態，課題に合ったテーマであった。

・研究授業を行った学年，また，各学年の日々の取り組みによって，子どもたちに変容が見られた。一斉授業の中で全体になかなか意見が言えない児童も，友達とのペアコミやグループ活動を通して，自分の考えをまとめたり，交流の中から考えを変えたり整理したりする姿が見られるようになった。また，温かい何でも言い合える学級集団をつくることで，自分では気づかなかったことに気づいたり，自分の考えを積極的に発表したり，たがいに意見を聞き合って学習を深めたりすることができた。子ども同士の関わり合いを意図的に仕組んでいくことで，思考力・判断力・表現力等を高めることができたと考える。

・Ｑ－Ｕは，学級の様子を客観的に把握するとともに，観察・支援を必要とする子どもの発見と具体的な対応を検討するため，有効な検査であった。今年度は，Ｋ１３法による分析，対応の検討を行い，より多くの目で分析し，より多くの考えで今後の方向性を探ることができた。学校全体で情報を共有し，課題解決に向けて意志を統一することができたことがよかった。

・朝読書によって，子どもたち落ち着いた雰囲気の中で進んで読書する姿が見られるようになった。他，家読，図書室開放など多様な取り組みによって，子どもたちの読書意欲が高まり，豊かな言語活動を支えることになった。

（課題）

・話し合い，意見交流に必要な要素について，より見識を深める必要がある。発達段階によって身につけるスキルなどを，計画的，系統的に仕組んでいくことで，より効果的に言語活動を行うことができる。

・集団づくりに関わった取り組み，例えば，ソーシャルスキルトレーニング，構成的グループ・エンカウンターなどについて，計画的に行えるような研究をしていくことも考えられる。

・部会間の連携をより密にし，統一性のある研究ができれば良かった。また，研究授業の授業案検討の時間をより確保し，授業者の負担を少なくしていけるようにしたい。

## Ⅲ　成果物

・研究授業，一人一実践の指導案　　（研究主任　　吉本　賢司）